

公益社団法人 私立大学情報教育協会
栄養学・薬学・医学・歯学・看護学グループ
分野連携アクティブ・ラーニング対話集会
開催要項

1. 開催趣旨

平成28年度に本協会が調査した「私立大学教員による授業改善調査」によれば、暗記伝達型教育から、参加型学修に転換しようとする教員の姿勢がうかがえ、アクティブ・ラーニングは「主体性の向上」、「考察型学修への転換」、「問題発見・解決体験による実践力の向上」、「主体的に考え行動するコンピテンシーの獲得」に大きな効果があることが判明しています。しかし、取り組みは緒についたばかりで、大半は個別授業における講義との組み合わせによる知識の定着・確認が中心となっています。

そこで、本年度のアクティブ・ラーニング対話集会では、質的向上を目指して教育・学修方法の工夫・改善にICTをどのように活用し、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性の向上を図るかを中心に考察を行い、理解の共有を進めていくことにしました。また、学修到達度の質保証を厳格化するICT活用の仕組みが期待されていることもあり、大学間連携による分野別外部評価モデルの検討と学位プログラム転換の促進にむけて、教員相互が授業情報を共有し工夫・改善を議論する情報環境と、その活用について認識の共有を目指すことにしました。

2. 対話集会のねらい

アクティブ・ラーニングに関する授業情報を共有し、工夫・改善が議論できるよう、本年度は以下の視点で対話集会を展開します。

- ① 質的向上を目指すため、ICTを活用して学力の3要素（基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性・多様性・協働性）を高める教育改善モデルや実践事例を紹介し、事例を踏まえてアクティブ・ラーニングの教育・学修方法を探求します。
- ② 学位プログラムへの転換を促進・理解するため、授業の可視化、学修成果の可視化など授業情報を共有化する中で、授業科目の相互改善に結びつける仕組みとしてのeシラバス、eポートフォリオなどの活用について理解を深めます。
- ③ ディプロマポリシーの達成度を測定する仕組みとして、本協会が提案しているICTを活用した外部評価の必要性とそのための大学連携コンソーシアムについて理解の共有を図り、教育の質保証を確保するアセスメントモデルの実現に向けた議論を展開します。

3. プログラム

- (1) 開催趣旨の説明
- (2) アクティブ・ラーニングの話題提供

① 栄養学分野

「現場・教員連携による栄養マネジメント学修改善の提案」

栄養マネジメントの実践能力を訓練するため、ネット上に多職種の専門家と多分野の教員が連携して学修支援システムを構築することで、実践型のPBL学修と学修成果の評価を行い、論理的な思考力、合理的な判断力、他者の立場を考慮した表現力と主体性・多様性・協働性を身につける授業の提案。

福山大学 生命工学部 教授 石崎 由美子 氏

② 薬学分野

「基礎から臨床までをつなげる分野横断的統合型教育の効果と課題」

薬学部で履修する多分野に亘る基礎科学系科目および臨床実務との繋がりを認識させ、学修意欲を持たせるため、教員から課題(テーマ)を提示して行われるPBLと、予習において学生同士が学び合うTBLを行うことで主体性や知識の活用力を身につける教育実践の紹介。

近畿大学 薬学部 医療薬学科 教授 松野 純男 氏

③ 医学分野

「ICT活用による多職種連携、分野横断型の教育改善モデルの提案」

医療・福祉・保健関係の多様な分野の学生が混成チームを構成して ICT を活用した PBL を行い、課題に対する対応策や根拠を考えさせることを通じて、医療人として備えるべきクリティカルシンキングの力と合理的思考力・判断力を身に付ける統合授業の提案。

日本医科大学 医学教育センター 副センター長 藤倉 輝道 氏

④ 歯学分野

「医療系分野での多分野連携 PBL 授業の実践と教育効果・課題」

医学・歯学・薬学・保健医療学(看護、理学・作業療法)の学生が対面およびネットを活用してグループで連携することにより、患者の多面的な把握、問題点の抽出、治療計画の立案過程で教え合い学び合いを通じて、知識・理解を再確認し、主体的に問題解決に取り組む能力を育成する授業の紹介。

昭和大学 歯学部 教授 片岡 竜太 氏

⑤ 看護学分野

「eポートフォリオを活用した看護学授業の実践と評価」

「主体性」、「思考力」の育成を図るために、eポートフォリオを開発して学びを振り返らせディプロマポリシーに掲げる到達能力の獲得状況を可視化し、学生自身に認識させることを通じて、看護学の知識・技能の修得と、課題解決能力の育成を目指した4年間の授業実践と評価の紹介。

東京慈恵会医科大学 医学部 教授 梶井 文子 氏

(3) 意見交流

教育・学修方法の工夫・改善に ICT をどのように活用して「学力の3要素」の向上を図るかを中心に実践事例や授業改善の提案について、参加者全員による意見交流を通じて、認識の共有化と解決に向けての気づきを探求します。また、学修到達度の質保証を厳格化する ICT 活用の仕組みとしての大学間連携による分野別外部評価モデルの検討と、学位プログラムへの転換促進にむけて、教員相互が授業情報を共有し、工夫・改善を促進するための情報環境とその活用を中心に以下のテーマで意見交流を行います。

- ① 「学力の3要素」を高める ICT を活用した教育・学修方法の工夫・改善
- ② 多職種連携教育を発展させるための工夫
- ③ 授業科目の相互改善を促進するための仕組みと ICT 活用
- ④ ICT による外部評価モデルの必要性和仕組み

※ 事務局から学修成果の質保証にむけた到達度の外部評価モデルについて提案します。

4. **参加対象者**：国・公・私立大学の教員、職員、授業補助学生(TA・SA)など

5. **開催日時**：平成30年1月21日(日) 14:00~17:30

6. **会場**：帝京平成大学(中野キャンパス 203教室) 東京都中野区中野4-21-2

http://www.thu.ac.jp/access/access_nakano.html

7. **定員**：100名(先着順で受け付けます)

8. **参加費**：無料

9. **参加にあたって**

事前に、本協会がまとめた「大学教育への提言—未知の時代を切り拓く教育とICT活用」の1章3.(2)(③学修成果の質保証に向けた到達度の外部評価モデル：7~8ページに記載)、2章(ICTを活用した教育改善モデルの考察：栄養学分野、医学分野、歯学分野、薬学分野、看護学分野)、「私立大学教員の授業改善白書(平成28年度調査結果)」をご覧ください。

<http://www.juce.jp/LINK/teigen.html> <http://www.juce.jp/LINK/report/hakusho2016/hakusho2016.pdf>

10. 資料について

当日、話題提供資料の縮小版を配布します。準備ができ次第、以下のURLに掲載しますので資料をご覧の上、参加ください。<http://www.juce.jp/senmon/active/>

11. その他

話題提供と意見交換の様子(意見交換は背面からの遠景)を個人情報に配慮して収録し、映像は編集後に加盟校に限定してネット上で動画配信します。また、意見交換による課題の整理は文章で本協会Webサイトに掲載する予定にしております。

12. 参加申込について

別紙の申込書に必要事項とアンケートを記入の上、FAX又はメールで1月17日(水)までにお申し込み下さい。

公益社団法人 私立大学情報教育協会
栄養学・薬学・医学・歯学・看護学グループ
分野連携アクティブ・ラーニング対話集会
参加申込書

※ 必要事項を記入の上、FAX (03-3261-5473) またはメール (bbseiyo@juce.jp) にてお申し込みください。

- ・ご記入いただいた個人情報、本協会の事務連絡及び委員会活動の案内に限定して利用させていただきます。
・データベース管理作業の外部委託の際には目的外の利用や情報の流出がないよう、十分留意いたします。

『参加者記入欄』

※ できるだけ詳しくご記入下さい。後日、収録ビデオ配信のご案内や今後の活動のご案内をさせていただきます。

ふりがな ()

氏名: _____

大学名: _____

所属・役職: _____

E-Mail: _____

アンケート 意見交流の運営に役立てるため、下記についてできるだけ記入ください

- (1) 先生が ICT を活用して体験されたアクティブ・ラーニングを振り返っていただき、ICT 活用の内容、学生の反応、授業運営の工夫・改善と今後の課題などを記入して下さい。
- (2) ICT を活用した学力の3要素(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性)の内、顕著に効果があったと思われる能力要素の□にレ印を付けてください。(複数可)
- 知識 技能 思考力 判断力 表現力
 主体性 多様性 協働性
- (3) 授業の可視化、学修成果の可視化を通じて授業科目の相互理解を深めるために、ICT を活用したe シラバス、e ポートフォリオを大学で整備し活用されていますか。
- ①と②の該当する□にレ印を付けてください。
- e シラバス ① 整備状況 (□整備している □整備していない) ② 活用状況 (□活用している □活用していない)
e ポートフォリオ ① 整備状況 (□整備している □整備していない) ② 活用状況 (□活用している □活用していない)
- (4) 授業科目の相互改善を促進するための仕組みとして、大学がサイトを設けて教員同士、職員、学生、有識者などを含めオープンに議論することは是非を該当する□にレ印を付けてください。必要に回答された場合は、対象者の□にレ印を付けてください。不必要に回答された場合は、主な理由を紹介ください。
- 必要 (□教員同士、□職員、□学生、□有識者) 複数可
 不必要()